

## 同一性の基準と単純説

鈴木生郎 (Suzuki Ikuro)

慶應義塾大学

---

人 (person) ないし様々な事物の同一性についての立場は、D・パーフィットに倣い、しばしば「複合説 (complex view)」と「単純説 (simple view)」の二分される。この区分を人の同一性に話題を限定しておおまかに特徴づけるならば次のものになる。すなわち、人の同一性に関する複合説によれば、人の同一性は何らかの物理的ないし心理的事実に存し、こうした事実によって還元的に (説明されるべき人の同一性を前提することなく) 説明される。他方、人の同一性についての単純説によれば、人の同一性は原初的なものであり、物理的、心理的事実によって還元的に説明されることはない。

S・シューメイカーとE・J・ロウは、近年、この複合説と単純説の対立に関する興味深い論争を行っている (Shoemaker “Against Simplicity”, Lowe “The Probable Simplicity of Personal Identity”, Shoemaker “Reply to E. J. Lowe”. いずれも G. Gassner and M. Stefan (eds.) 2012. *Personal Identity: Complex or Simple?* Cambridge University Press に所収)。その論争は、おおよそ次のようにまとめられるだろう。単純説の支持者であるロウによれば、シューメイカーを含む多くの複合説論者が提示する人の同一性基準は循環を含み、人の同一性を還元的に説明することに失敗している。そして、この失敗からロウは、人の同一性については単純説がよりもっともらしいという結論を導く。他方、複合説の支持者であるシューメイカーは、ロウに一定の譲歩をしつつも、ロウが指摘する「循環」は複合説を揺るがすものではないと考える。加えてシューメイカーは、単純説はきわめて奇妙な帰結をもつことを指摘し、人の同一性に関する立場としては維持しがたいと論じる。

本発表の目的は、この論争について以下のことを示すことにある。(1) ロウが指摘する循環は、シューメイカーのようなタイプの三次元主義的者が、人の同一性を還元的に説明することを実際に困難にする。それゆえシューメイカーの立場は、それを複合説とみなすかぎり成功していない。(2) 他方で、このことからロウのように、人の同一性にはいかなる基準もないとする極端な単純説を導くことも誤りである。そして、こうした誤りは同一性の基準についてのロウの理解が狭すぎることに基づく。(3) 同一性の基準についてのより穏当な理解に基づくならば、シューメイカーが与える同一性基準が含む循環は、それ自体として問題ではない。さらにこうした理解のもとで、シューメイカーの立場を、彼が懸念していた奇妙な帰結をうまく回避する、より魅力的な単純説として再解釈できる。